

平成30年度南加賀医療圏保健医療計画推進協議会（第1回）議事要旨

1 日 時 平成30年10月16日（火）19:00～

2 場 所 石川県南加賀保健福祉センター 大会議室

3 出席者 委員21名（委員名簿は別紙のとおり）

4 次 第

第一部 話題提供

演 題 「惑星直列の価値観

～地域包括ケアと地域包括ケア病棟に求められているもの～」

演 者 医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 理事長 仲井培雄 氏

意見交換

テーマ「これからの地域医療と地域包括ケアの推進について」

第二部 石川県地域医療構想の推進に向けた今後の取組等について

議 題 (1)今年度の地域医療構想調整会議の進め方

(2)地域医療構想の進捗状況及び個別医療機関の医療機能等

(3)医療機関の今後の動向や転換事例等

5 主な意見

第1部（意見交換「これからの地域医療と地域包括ケアの推進について」）

- ・（医療機関）国からの国民に向けたメッセージが欠けているように思う。たとえば、患者側からはいつでも治療が可能な「面倒みの良い病院」を期待されているが、国（行政）は病院側へ「早期退院」の方針を課している。地域医療の取組方針について、行政はもう少し国民が理解しやすいような説明と啓発が要るのではないかと。
- ・（行政機関）能美市では「我が事・丸ごとの地域づくり推進事業」で生活相談のワンストップ対応体制を整備し、市と市民とで地域包括ケアの推進に取り組んでいる。総合相談窓口の設置や全地区での地域福祉委員会による地域活動で、地区での支え合い、地域力が向上してきている。互助についてはいろいろと取り組みができてきているが、自身が判断する自助力、本人の意思決定支援を今後どのようにしていくのかかが課題だと思っている。
- ・（地域団体）推進員として健康寿命を延ばすことを最優先に考えている。一市民としては、地域包括ケアシステムは必要だと思うがどこまで踏み込んでよいのか迷う。（たとえば）徘徊している人がいたら有線放送で応援協力等の依頼を流すことがあるが、隣町になると抵抗感があり、お節介で終わらない場合もある。

- ・(地域団体) 成年後見人としての関わりを通して感じたことは、地域で当事者の家に介護サービス提供者やケアマネジャー、医師等がそれぞれ訪問する機会が増加しているが、当事者にとっては誰が誰だかわからない状況があり、真に本人と繋がる人は誰なのだろうか?と思うことがある。地域交流が少ない当事者(要介護者等)のことを地域で知っている方が年々少なくなり、本人の意思がどのように把握され、どのように終末期医療に反映されていくのかが不安に感じている。
- ・(保健医療関係) このような場合には、本人にとって一番のキーパーソン、本人を最も理解している人を見つけて、その方にもケア会議に参加していただいてどのような最期を迎えたいのかを聞いていただくと良いのではないかと思う。
- ・(保健医療関係) 地域医療構想や地域包括ケアの取り組みをどのように社会に啓蒙していくのか?については、いかに地域住民に対し、地域医療構想や地域包括ケアについて知っていただくかを考えていきたい。
- ・(医療機関) 地域包括ケアを地域のみんなでどうやって進めるかということが大きな課題だと思う。骨折をして寝込んでしまうお年寄りが多くいらっしゃるが、実は大腿骨を骨折するとがんよりも5年生存率が低いことはあまり知られていない。その背景にある骨粗しょう症を生活習慣病だと捉えている人が少なく、小さい頃からの食事習慣や運動習慣等が随分偏っていたために骨粗しょう症となり骨折し、それが医療費を非常に圧迫してしまっているという実態がある。そのような方が急性期病院で骨折の治療をして地域に帰っても骨粗しょう症の治療を継続することや日常生活を家族や地域で支えることがなかなかうまくいかないということもある。このひとつの例を捉えるだけでも、地域包括ケアとしては非常に密接につながるべきと感じるところがあり、それは急性期病院、地域包括ケア病棟、一般外来において、もちろん介護の関係の方々ともそういうことを一貫通貫で考えていくことが必要。これからもこういう会議で活発に議論できればと考えている。
- ・(医療機関) 最近の救急医療状況を見ると、医療機関から経由して運ばれてくる方はかなり減りACPがよくなっていると感じる一方で、単身生活困難者の救急搬送が結構多いように思う。地域包括ケアを構築するには、そういう生活困難者とかも「丸ごとサポートする」というシステムが無いと成立しないのではないか。ACPに関しては、在宅医療の方や独居の患者様に対してどこまで治療を行えばよいのかわからないので、市としてもっと啓発してほしい。

第2部(石川県地域医療構想の推進に向けた今後の取組等について)

- ・「第1回地域医療構想アドバイザー会議(H30.8.31開催)」の概要と、地域医療構想アドバイザーの活動について教えてほしい。
 - (委員)8月31日に厚生労働省主催の「地域医療構想アドバイザー会議」があり、本県から3人出席、当該アドバイザーの役割等について学習した。主な内容は、①地域医療構想調整会議で議論を活性化するためのファシリテーター的役割の説明、②ある医療圏地域を事例とした医

療体制構築のグループ検討、③「これからの調整会議の進め方」の説明だった。

さらにもう一つは、これからの構想会議では主に病床のことだけが話し合われがちであるが、病床だけではなく外来機能についても議論していくようにという話があった。南加賀圏域では少し広い範囲で議論できているので、いい傾向だと思う。

- ・本年6月22日に各都道府県宛に発信された厚労省からの通達「地域医療構想調整会議の活性化に向けた方策について（医政地発0622第2号）」において、都道府県主催の研修会について開催が求められているが、本県での予定について教えてほしい。

→（事務局）具体的にはまだ決まっていない。他医療圏での意見や、医師会・病院協会とも連携しながら検討協議していきたいと思っている。研修会については相談の上、今後皆様方にご案内させていただきたい。